

# 全柔連だより

題字 / 嘉納行光

発行人 / 嘉納行光

編集 / 広報委員会

発行 / 財団法人全日本柔道連盟 ( ☎03-3818-4199 )

## 世界の「JUDO」を正しい流れへ

### 佐藤氏から中村氏へIJF教育理事バトンタッチ



国際柔道界をリードする佐藤・前教育理事、中村・教育理事、ベソン・スポーツ理事、コジマ・審判理事、バク会長(左から)  
(97福岡国際女子柔道選手権大会より)

1997年10月のパリ世界柔道選手権大会の直前に開かれたIJF(国際柔道連盟)総会で、中村良三氏(筑波大教・全柔連教育普及委員長)がIJF教育理事に就任した。1989年10月から2期8年にわたり活躍してきた佐藤宣践氏(東海大教・全柔連国際委員長)の勇退を受けての立候補だった。

国際柔道界において日本がイニシアチブを発揮するためにも、日本唯一のIJF理事の果たす役割は大きい。佐藤氏にはその活動を振り返ってもらい、中村氏には今後の抱負を聞いた。(構成 渡邊昌史)

#### IJFの理事会について

会長、副会長5名、事務総長、財務総長、スポーツ理事、審判理事、そして教育理事で理事会を構成する。副会長は各大陸連盟の会長が務める。理事は1カ国1名。

## リサイクル柔道衣の配布、記録の視覚化を推進 佐藤宣践

---- 大役を終えての感想は

教育理事について、ひと言で表すと柔道の専門性、技術的なものの研究、指導者の選任などから見て、日本の柔道家でなくてはなかなか難しい役職です。

最初は、柔道界の国際情勢の把握からはじめ、まさに手探りの状態という感がありました。後半は、ある程度の実績も残せたと思っています。

また、始めの6年間は嘉納行光・全柔連会長がアジア柔連会長として出席されていまし

たが、終わりの2年間は日本からは私一人で、プレッシャーもありました。

---- 特に力を入れたこと、成果は

1990年から継続している「リサイクル柔道衣」の配布活動で、これまでに2万着近くを109カ国へ発送しています。次に記録を視覚化して残すことを定着させ、1985年ソウル世界選手権以降の大会及びオリンピックの記録を全てVTR化しています。また、「決まり技」の制定、各国の指導者を集めて行ったIJFコーチクリニック、IOCと協力して指導者を各国に派遣する

こと(オリンピック・ソリダリティ事業)などがあります。

---- 後任の中村氏に対して

IJFの全ての情報が入ってくる部門なので、スタッフを充実させないと大変です。もちろん私も全面的にバックアップしますが、特に全柔連としてのフォロー体制を作る必要があります。仕事はハードですが、やり甲斐もありますので、健康に留意して奮闘をご期待いたします。

## 全柔連の代表として、柔道の本質を追求したい 中村良三

---- 就任のいきさつについて

最初にお話があった時には、大変名誉なことですが語学力や活動力、さらには経済力などの問題もあり、丁重にお断りしました。しかし、嘉納会長、大矢副会長、小粥専務理事などから、全柔連、講道館が全力でバックアップするので立候補してほしいと再要請があり、教育普及委員長としての立場からも、力不足を承知しつつお受けすることにしました。そして、日本の方針、私の考えを理解しても

らうために、夏休みを通して世界を回り、選挙活動を行いました。

教育理事には他の国からの立候補がなく、パリでの総会にて拍手による信任という形で当選しました。

---- 今後の抱負と活動について

IJFの内容や教育理事の職務内容については、会議に出席して初めてわかったことも多く、外から考えていた以上にハードであり、重要な仕事であると思います。

教育理事は、私個人のポジションとは考えていません。全国のいろいろな先生方からのご意見やご指導をいただきながら、全柔連としての意見を集約してIJFに反映させ、世界の柔道、日本の柔道の発展に少しでも貢献することが使命であると考えています。

そのためにも、IJFでの情報、決定事項は国内にどんどん伝えるように努力します。皆様のご協力程をよろしく願います。

## 二宮和弘 (97世界選手権審判員)

今回のパリ世界選手権大会に帯同審判員として参加させていただきましたが、特に感じたことは、全体的に審判員の未熟さによるミスジャッジが多く見られたことです。

前回の審判は6年前のパルセロナ世界選手権大会でした。この大会も審判技術の低さに驚かされましたが、今回の大会は前回以上のレベルの低さによる誤審が目立ちました。

外国の審判員は技の判断基準が非常に甘く、主審をしていて「効果」と言えば「有効」、「有効」と言えば「技あり」、「技あり」を取れば「一本」とことごとく変えられました。また、下から上(有効から技ありなど)には変更するが、一度「一本」と宣告すると、少々甘い技であっても決して下には変えない審判員がほとんどでした。今回の大会では全試合の中で「一本勝ち」の占める割合が53%だったのですが、「一本」の基準の甘さから出た数字ではなかったのではないのでしょうか。また、これと関係があるのが審判員の反則の与え方に

あると思われます。全体的に早すぎる「指導」が多く、反則で勝敗が決する試合が多く見られたことです。実際、私が副審をしていた時、開始10秒で「指導」を取った審判員があり、取り消しの動作を行いました。採り入れられませんでした。

柔道の経験の浅い審判員が多く、攻撃と掛け逃げの区別がつかないことや、60kg級の北朝鮮対グルジア戦のような明らかな審判ミスで勝者と敗者が入れ変わった試合、開催地選手への有利な審判など、勝敗に不公平さが多く見られた点などがあげられます。世界選手権の半年前にはIJF指名の審判員にはセミナーが行われたようですがほとんど効果が上らなかつたように思われます。

今後、総力を上げて審判員の資質の向上に取り組みなければ、このままでは柔道がダメになり、衰退の一途をたどって行くのではないかという危機感を持ったのは私一人ではな



「審判員の未熟さが目立つ。審判員の資質の向上に取り組みなければ柔道が衰退してしまう」と語る二宮審判員

写真提供©ベースボール・マガジン社「近代柔道」

かったのではないのでしょうか。

今こそ改めて日本がリーダーシップを取り、審判員の再教育を行い、審判技術の向上のための指導力を発揮することが必要とされる時期にきていると思います。

## JUDOはどこへいくのか?

「柔道が最近つまらなくなった！」これはオリンピックや世界選手権の様態をテレビで見た人達の感想である。一方で本来の柔道の醍醐味や素

晴らしさが評価され始めている事も事実である。国際的な場での試合のジャッジを含め、審判員の役割の大きさを改めて考えさせられたパリ世界選手権大会。

「試合の主演」は選手であるということを考えれば、ジャッジに泣く笑うということは避けなくてはならない。

また、「一本」の点数制の導入等、本来の柔道とはかけ離れたことがまた提案されようとしている。審判員として参加された二宮・小野沢両氏より審判員の目から見た世界選手権をふり返えてもらった。

## 21世紀に向けてのジャッジメント

## 小野沢弘史 (97世界選手権審判員)

格闘技である柔道競技は複雑な運動現象を伴うため、投技の判断など、瞬時に正確に見極める人間の能力の限界に近い微妙なケースもある。以前から審判問題はあったが、国際



「審判員の存在の重要性を改めて認識させられた世界選手権パリ大会でした」と語る小野沢審判員

写真提供©ベースボール・マガジン社「近代柔道」

大会では93世界選手権ハミルトン大会頃から顕著になってきたように思う。

柔道の俊英が集まる世界選手権は男子20回、女子10回という節目の大会を迎えた。

国際柔道連盟は、大会に先立ち、半年前の4月18日から20日まで、パリで五大陸より選出された32名の審判員を招集し、セミナーを開催した。テーマは審判技術の向上。特に投技の評価や罰則の適用に、大陸そして個人の間にはばらつきがあるので、その基準の確認、そして礼法、またその手順をコントロールすることを認識することであった。

さらに、大会前日には各国からの帯同審判員を含めた51名の審判員が全員揃い、半日間のインストラクション、そして大会4日間の毎朝30分間はミーティングを実施し、アクティブでエキサイティングな試合を展開させるべく意思統一をした。

しかし、実際に審判をしてみると、残念なことに柔道競技における攻防技術の理解と規定の解釈の差を克服出来

## 97パリ世界柔道選手権大会優勝者

階級	氏名	
無差別	R.クバッキー (ポーランド)	
+95kg	D.ドゥイエ (フランス)	
男子	-95kg	P.ナツラ (ポーランド)
	-86kg	全己盈 (韓国)
	-78kg	趙麟徹 (韓国)
	-71kg	中村兼三 (旭化成)
	-65kg	金赫 (韓国)
	-60kg	野村忠宏 (奈良教育大大学院)
無差別	D.ベルトラン (キューバ)	
+72kg	C.シコ (フランス)	
女子	-72kg	阿武教子 (明治大)
	-66kg	K.ホーウェイ (イギリス)
	-61kg	S.バンデアンド (フランス)
	-56kg	I.フェルナンデス (スペイン)
	-52kg	M.レストー (フランス)
	-48kg	田村亮子 (帝京大)

ず、課題を残す結果となった。

例えば、投技の判定基準で「一本」を軽く安易に与える傾向が強く、技の巧みさ・牙えの質の低下が懸念される。

罰則の適用では、ノン・コンパティビティ(消極的)の与え方が早すぎ、また、相手に罰則を誘う動作に対する見極めが不十分のように感じた。(日本では全般的に遅すぎ、かつ偽装攻撃に対しても甘すぎると思うが.....)

さらに、寝技の攻防では内容を良く見て「待て」のコールをするわけであるが、早すぎて、これでは寝技が衰退する印象を受けた。

柔道を21世紀に、より普及・発展させるためには、この頃散見されるが反則を誘発して勝っても勝ち勝ちは、と見受けられるような風潮の競技となつては、社会に受け入れられるはずがなく、柔道に明るい未来はない。審判員の果す役割は大きい。

恣意的な裁定をする審判員などは論外である。見ていて清々しい戦いぶり、で、「一本」を志向する柔道の原点を追求する試合を展開させるためにも、審判員の存在の重要性を再認識させられた私の世界選手権パリ大会であった。

# シドニー以後、長期の強化が必要

藤田弘明

'97パリ世界柔道選手権大会  
日本代表選手団 団長

1997年世界柔道選手権大会日本代表も世代交代をするなかで、男女共4月に決定した。強化方針どおり大会までの6カ月間、技術的なことは勿論のこと基礎体力、精神面、栄養等に医科学委員会の協力のもとに万全を期してきた。

長期の海外遠征で外国選手との合宿を体験させることにより、実践的な強化に取り組むことができた。試合結果は周知のとおり厳しい戦いであったが、選手それぞれが健闘し、阿武(72kg級)の初日の優勝に続いての二宮、篠原の善戦、特に注目を集めたのが田村(48kg級)の3連覇達成の快挙、中村兼(71kg級)のこの一年間の不振を爆発するような決勝の見応えある試合もあった。日本選手の最後を締括したのは野村(60kg級)。どのような体勢から



も攻撃パターンがあり、日本柔道の神髄を見せてくれた。試合の結果は満足のものではないが、選手は十分に力を出きっての戦いであった。この体験を生かし、今後の強化に関わる体重区分の変更、審判員の反則重視についても的確に対応して、シドニーへ向けて心身ともに強い柔道の実現に取り組む考えである。また、中・長期の展望にたつてジュニア層の強化・育成を図り、シニアと並行しての強化が不可欠である。現在、全国的に柔道人口の減少は各県共通の課題であり、その一環としてジュニアブロック合宿の折に少年柔道教室を実施して、地域の底辺拡大、普及を目的に強化委員、コーチ、現役選手の指導のもとにかなりの成果を挙げることができた。今後はシドニー以降の強化も強力に推進する所存である。

## 挑戦者の気持ち忘れずに

60kg級 野村忠宏

「世界選手権も勝ってこそ本当のチャンピオン。だから今は自分をチャンピオンと思うな」という細川伸二先生からの言葉を胸に、チャレンジャーとして最後まで攻め抜く柔道を心掛けて試合に臨みました。

実は、アトランタオリンピック後、チャンピオンとしてのプレッシャーや多くの方々からの期待は想像以上のものがあつたのです。

途中、薬指の腱を切るという怪我也あつたのですが、5試合中4試合一本勝ちという自分でも満足いく試合ができました。今までは、一本を狙いにいく柔道にこだわっていたのですが、今は、攻めている過程を通して一本が取ればいいというふうを考え、どんどん攻める柔道をするようになったと思います。

オリンピック・世界選手権と大きな大会が終わって2つの金メダルを獲得することが出来たのですが、これに満足せず今のところの最終目標(シドニーオリンピック)に向けて「出る試合は全て勝つ」という気持ちで頑張っているつもりです。

最後に、世界選手権のためにサポートして下さった全柔連の役員、コーチの先生方をはじめ、トレーナー、栄養士の皆さん、そして日本柔道を応援して下さいました多くの皆さんに感謝します。

## 30秒から...世界の頂点へ

72kg級 阿武教子

「一本、それまで」。小さいころからあこがれていた私の五輪は、たった30秒で終わりました。生まれて初めて味わった屈辱は、これから柔道をやっても勝てるのかという大きな不安となって私を襲い続けました。でも私は柔道が好きです。「もう一度柔道がしたい、再び世界に挑戦したい」と精神面の強化を誓い、階級の変更という決断をして、新たな挑戦を踏み出しました。72kg超級と72kg級ではパワーやスピードなど、柔道の質も違い、一つのかげでした。約4kgの減量にも取り組みながら、気持ちが前向きになっていくのが分かりました。

パリの世界選手権の畳の上に上がったとき、私の心にもう不安はありませんでした。あつたのは、あれだけの練習をしたのだから勝てるんだという自信でした。金メダルまでの5試合は3歳から柔道を初めて以来、気持ちも内容も最も充実していたと思います。勝ち続けることが一番ですが、勝負の世界には負けは付き物。その敗戦を次に生かす事が大切です。世界選手権で初めて手にした金メダルも、五輪の屈辱があつたからこそ。1999年の世界選手権でも、あの喜びを再び味わえるよう精進したい。

## 世界3連覇、次はシドニー五輪

48kg級 田村亮子

93カナダ・ハミルトン大会、95千葉・幕張大会、97フランス・パリ大会と6年間に渡り、世界柔道選手権大会で金メダルを手中にすることが出来ました。今から8年前の、90福岡国際大会の時でした。当時15才だった私は国際大会初出場で、観るものすべてが新鮮で世界の選手達やレベルの高さ、マスコミの方々からのインタビュー等、はじめて経験するものばかりでした。この時の優勝をきっかけに私は、大きな自信を掴んだのです。

柔道と出会って、今年で15年目になる今、世界で戦う厳しさや、世界で勝つ嬉しさを身に染みてわかってくる私がいいます。そしていつも素晴らしい先生方に恵まれ、バックアップしてくれる方々がいて、両親がいて.....。私は更に、世界の頂点で輝き続けられるようBESTを尽くす。

今回の世界選手権パリ大会もそうした環境の中勝ち取った金メダルでもあります。パリ大会が終り、日本に帰国して実家に帰り、トロフィー

やメダルが飾ってある所に、今回の金メダルも一緒に飾りました。そこには、世界選手権で獲得した金メダルが3つ並びました。この時改めて、世界を3度制したのだなぁと実感しました。

## 五輪・世界選手権制覇できて

71kg級 中村兼三

パリの世界柔道選手権を終えて、自分はアトランタオリンピック以降、試合で優勝することが出来ず、どこかで負けられないという気持ちが空回りし、自分では常に挑戦する気持ちを忘れずしようと思っていましたが、どこか無意識の部分で受けに回っていました。

そして、試合の当日を迎え、アトランタオリンピックの時と違い、自分は本当に優勝できるだろうかという不安が大きく、試合の時には、自分のいい組手になりながらも技を出せずに、相手の様子を見てしまい本来の自分の柔道ができませんでした。そして本調子に乗り切れないまま、決勝戦までこぎつけ、相手は地元フランスの選手なので応援に圧倒されないように、最初から攻め、自分の柔道をし、一本を取らないと勝てないという気持ちが良い結果につながり、優勝できたと思います。

そして、今回の世界選手権で、非常に大きな収穫を得ることが出来ました。このことは、自分にとって、これからの自信につながりました。

これからも、新しい目標に向かい柔道の本質である「一本取る」柔道を目指し、一試合、一試合を大切に、頑張っていきたいと思っています。

## 97パリ大会の柔道の神髄みせて



97パリ世界選手権後に開催された大阪「なみはや国体」で特別表彰を受けた金メダリストたち(左より田村・阿武・野村・中村兼)

# 今、必要なのは登録人口の拡大

- 全国の会長会議・理事長会議開催！ -

49の加盟団体の会長や理事長が出席する「ブロック別会長会議」ならびに「理事長会議」が、全日本柔道連盟の初めての試みとして開催されました。柔道の指導者や選手たちは懸命な汗を流し、大会の会場や柔道界の盛り上がりを図ろうとしています。全国の幹部の方々は柔道界の発展のために熱い激論を交わしました。



全柔連の執行部へ意見の具申がなされたブロック別会長会議

## 気楽に、率直に柔道談義を

平成9年の10月から10年の2月までの5回に分けて、国体や福岡国際女子選手権の試合終了後など、酒の肴をつつきながら、「気楽に柔道談義を」の趣旨で、「ブロック別会長会議」が初めて開催されました。

紹介しますのは、県の会長の代理で出席された方からの資料付きの手紙です。文面から会議の一端が垣間見られたらと存じます。

「全柔連執行部の並々なぬ努力と先見の明に敬意を表します。世界の柔道になった現在、日本の置かれた国際的立場は苦々しく感じるほど、辛いものがあると改めて思いました。カラー柔道衣より、柔道の本質にかかわる「効果などの累積化」はもっと重大に受けとめなければならないのだと思いました。また、世界的に技の巧拙の軽少化や審判員の技術の低さの対策は、確かに時間のかかる、根気の必要な問題だと思知らされました。

国際柔道連盟の教育理事に就任した中村良三氏が提唱していた「カムバック・トゥー・ザ・柔道（道場）」は面白いものだと思います。昔の経験者がボランティアで現場に戻る等のアイデアのように認識しました。本県の実情の一部を申し上げます。

### ① 柔道振興策の実行を考える会長会議

本県は離島ということもあって、各種大会に参加するときは、旅費等の経費が他県に比べ極端にかさむので、連盟運営の予算は厳しい状況にあります。従って、総合警備保障（後援）の柔道教室や、日本武道館等の錬成稽古で、指導者を多角的に派遣していただくことはたいへん有り難いことであります。

中学や高校の柔道経験のある教員が少ないことが話題になっていましたが、本県でも高校はわずか5人（福岡県は102名）、学校柔道は一部を除いて沈滞気味であります。

全柔連執行部でも、学校の指導者を配置することについて、関係諸機関に働きかける努力をされているように伺いました。今後とも学校における指導体制の強化についてご配慮を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。（池間武俊・沖縄県柔道連盟副会長）

不透明で、経済的に窒息状態にある現在の日本社会、また「心の教育」の必要性が叫ばれているとき、柔道の魅力をひとりでも多くの人にわかってもらうように働きかけたら、今と違った様相が見えてくることでしょう。

## 柔道界の活性化を目指して

平成9年10月3日（金）の昼下がり。東京・文京区の春日町交差点にある講道館の向かい側の「文京区民センター」の4階。ブロック別に分科会を進行している会議室をのぞく。近畿地区、それに学柔連と実柔連の理事長計8名が集まる部屋では、もう登録人口の拡大策の具体案に入っていた。

「少子化なのだと思うが、柔道の人口も全体的に減少の一途だ。中学生や高校生は最高時の半分になってしまった…」

平成8年12月の全柔連評議員会で、「情報公開という話があったが、まさにカラー柔道衣のことは余り知らされていなかった。柔道愛する者として、各県会長会議などを開催していただいて、意見が率直に言える機会をもてたらと思う」（蓮見弘・埼玉県柔道連盟会長）の発言が契機となって、開催された理事長会議。

「全柔連の現状」などの説明があった全体会議のあと、各部屋に分かれての分科会が開かれ、最後にその討議内容の報告と、質疑応答があった。主なものをあげてみる。

警察官の登録を確実にすると、登録人口の拡大にすぐ結びつく。（\*回

### ② 柔道界の拡充策を考える理事長会議

答⇒警察官の柔道は業務。その登録は個別の対応で検討していきたい）小学生や中学生を担当している指導者にもっと光をあて、評価するようにしたらい。相乗効果で登録も増えるはず。

正課の柔道の授業を3年間受けたら、昇段試験の受験資格があるようにしたい。（\*回答⇒段位の手続きとのからみがあるので一概に言えないが、持っていく方だと思う。検討したい。）

中学校などは、指導者の不足が問題になっている。採用や研修事業等で、全柔連の役割がもっとあるはず。（\*回答⇒少子化で教員自体の採用が減少しているが、できる限りの努力を続けたい。）

登録費の割合は収入全体の中で大きい。別に収入財源の確保は難しいので、大会等での赤字はないようにしてほしい。また大会を整理・縮小するなどの努力を。

（\*回答⇒困難な経済状況ではあるが、協賛金の収入増大を図り、平成9年度は黒字。「男女一緒」の大会等を模索するなど、効率のよい運営をめざしたい。）

## もっと光を！あたたかい評価を！ 全柔連表彰規定決まる

全国教員柔道大会に20年連続出場した千葉県のK選手。昭和23年から50年間連続して地区対抗の柔道大会を開催している山形県のN市柔道会。教育の現場に好影響を生み出したことや、地域の生活の潤いにもひとつ味わいを醸しだしていたことが、次のステージではスポットライトを浴びて表彰される。

オリンピックや世界選手権の優勝者等に対する文部省やマスコミの表彰はあったが、全

日本柔道連盟初めての「表彰規定」。規定の一部をあげる。施行は平成10年4月1日。

第3条（表彰・推薦の基準）

（6）教育的功績者・団体

多年にわたり、地道な柔道の教育・普及活動に携わり、その努力がおおいに認められる者、または地域の柔道振興に貢献した者・団体。

第4条（意見の聴取）

表彰または推薦については、必要に応じ、関係専門委員会または加盟団体等の意見を聞くこととし、これらの推挙を受けることができるものとする。

表彰してもらいたい個人や団体の業績や活動の内容を市町村の柔道会はどしどし、推挙してください。

お問い合わせは、全柔連事務局まで

（☎03-3818-4199）

# 形の普及・柔道の新たな発展へ

平成10年9月27日(日) 講道館にて開催される全日本柔道形競技大会。第2回の大会は固の形・極の形・護身術・五の形の4つの種目が行われる。

第1回の大会は初めてだったので、時間はあまりなかったが、全国からの盛り上がりにはしっかりとしたものを感じられた。乱取と形は、柔道修行の両輪と言われるが、小さいときから柔道に親しみ、年齢を重ねても柔道に取り組む「生涯柔道」を目指した形の競技大会は、観客を意識した運営も必要との意見がある。

「どのように育てるか、全国の柔道人の取り組み方次第。皆さんの協力が一番」と、山本四郎、島谷順子の両担当実行委員は話されていた。

## 柔道の「本質」失わない「形」期待 山本四郎 (実行委員)

平成9年9月27日、講道館大道場で第1回『全日本柔道「形」競技大会』が講道館と全柔連共催で行われた。

そもそも講道館では例年「夏期柔道指導者講習会」の最終日に、各種の「形演技会」を開催している。競技のみに偏らないように受講生の練度により、合格者には昭和7年8月から「修得証」を授与し、昭和61年からは「習得証」と「修得証」に分けて「形」の資格を与え普及発展に努めている。

今年4月ごろから競技的に競う「形」大会開催の声が高まった。その「大会の名称」から各種形の「種目選定」と「実施方法」「出場資格」そして「評価方法」に至るまでを小委員会により具体的に検討し、開催にこぎつけた。

「形」を3種に絞り、今年は「投の形」、「柔の形」、そして「古式の形」に決めた。

困難を極めたのは、何と言っても「審査基準」である。「形審査評価方法」の案を作成して賛同を求めて実施したが、未だいくつかの問題は残る。採点法は講道館夏期柔道指導者講習会の「演技評価基準」を始め、武道的見地から空手道やなぎなたの「形競技規定」等を参考にした。

礼作法(服装、立礼、坐礼等) 基本動作(姿勢、態度、組み方、進退体捌き等) 技の理合(正確度、理合、技の要点、順序、緩急、強弱、タイミング、テンポ、リズム等) 位置のとおり方、受身に分類し、50点満点のそれぞれに配点。その配点率を換算し、最上下を除き、審査員の平均点で2位まで表彰することにした。審査員には「形」に精通卓越した正しい判断力を要求されることから、全国10地区及び講道館から選出された各形共9名の審査員によって評価された。

採点結果を見ると、ごく一部にやや理解に



無から有を生む? 形柔道の新しい発展が望まれる

苦しむ偏見的なものも見られたが、これは最上下を除く事により解決された。結果的には客観的にも適正なものが入賞した。特に入賞者に共通することは、決められたことを正確に実施して、しかも一本一本の技表現に無駄なく体育的に力強さがあった。

形は、それぞれ無数の攻防の技の中から代表的な規範となる技を体系づけたものである。柔道の基本を包括した、つまり、柔道の基礎を集約して、その中に崩し、作り、掛けは勿論のこと、礼法も体の運用も、強いとは間合い、残心までも包含して、道の神髄を体得させるものである。単なる小手先の演技に終始してはならない。

形は、規範的な約束稽古から始まる文法であり、乱取は応用的自由稽古の文章であると言える。「かた」が「かたち」に終わらないように、両者相補って均衡調をとる事が肝要で、技術を修得して始めて理論が生まれてくるといっても過言ではない。

近来、柔道が変質しつつある中で、「形」に精進する事により基本に還り、正しく理合を体得していく真剣味が今こそ求められるべきであろう。

海外ではドイツをはじめ、数カ国で「形選手権」が行われている。私も毎年続けて指導員として招聘されたが、非常に熱心で練度も年々高くなってきた。将来的には、この大会も国際的なものに発展させていくことも考えて企画立案していかねばならない。

種々の意味で今回の大会は柔道の先人が残した「日本古来の文化」を失わないようにしながらも継続を重ね、問題を解決しつつ進めなければならない。そして今大会を講道館柔道の「形」の理解と認識を深め、全国的な普及発展に向かう第一歩にしたい。

## “ゼロから有形を造りたい”

島谷順子  
(実行委員)

全日本柔道形競技大会が今、まさに始まろうとするその瞬間のあの緊迫感が今でも鮮明に蘇ってくる。年齢、男女の区別なく、個々の体力、好みに応じて、誰でもができる柔道の新しいステージを求めての競技大会の実現であった。

競技開催までの経緯は、準備期間が少なかったため、全てゼロからの出発であった。無から有形を創り出すのは困難でもあるが、希望を胸膨らむものでもある。ただただ、競技大会が順調に進行することを祈るばかりであった。

全国10地区の代表は、さすが、それぞれ立派な演武であった。観客側としても、目を引き寄せられる演武の内容であった。審査員の先生方も10組続けて緊張を強いられることになり、大変だったと思うが、全体として大会は良い雰囲気の中で実施できた。お互いに競い合っていく中で、形そのものに対する理解も深まり、技術もレベルアップにつながるのだと思う。

将来の大会へ向けての提案を以下に考えてみた。

今回は準備期間も短かったため、広報活動が不足した。マスメディアを利用して、多くの人々に興味・関心を持ってもらえるようにしたい。

全国の高段者やこれからの競技大会上位入賞者を対象に、審判のライセンス制度同様に、公認審査員制度を作り、審査員を養成したい。

今回出場30組のうち、女性は柔の形に出場した3組だけ。柔の形の上位入賞は女性の3組であった。形の演武に男女のハンディが出てくるとするならば、部門をそれぞれ、男女別にさらに年齢別に分ける必要が将来あるのでは? また、男女ペアの演武も良いと思うが、これはどちらに属するのだろうか?

最後に、形の競技大会の開催がきっかけとなって、柔道の愛好者が増え、柔道そのものの大きな発展につながることを期待したい。

# 「人づくり」で講道館柔道の普及

教育普及委員会

「講道館柔道の普及は、“人づくり”を目標とするべきであるが、本来、一体であるべき競技柔道に埋没してしまうことを心配しております。」(教育普及委員会・前委員長 長谷川博之)

教育普及委員会では、このような講道館柔道への課題にむけて、指導者養成、正しい柔道の普及、礼法の徹底、生涯柔道の普及と、「人づくり」の柔道をより多くの人に実践してもらおう事業を展開しています。

## 『礼に始まり礼に終わる』(ベストマナー賞)

競技の入賞者だけでなく、礼法・試合態度・姿勢の良い選手を表彰し、これらの意識を高めると共に、指導者に対する指導のあり方を認識させることで、正しい講道館柔道の普及に寄与する目的で、教育普及委員会の事業に基づいて、埼玉県と東京都練馬区の少年柔道大会では、「さわやか選手賞」を創設しています。今後は、それらを全国に広げていくこと、全国大会で範を示す方向性を考えています。(以下、練馬区の例をご覧ください)

### 1. 選考方法

#### (1) 概要

選考委員による採点方式とし、集計後の審査を経て決定するもの。最終決定は選考委員長が行う。

#### (2) 選考スタッフ

選考委員長 1名  
選考委員 3名  
(各試合ごと)

#### (3) 採点

観点に従って5点法。1試合あたり25点満点。選考にあたっては各試合者の1試合あたりの平均点数で比較する。

### 2. 観点(選考用紙から)

『さわやか選手賞』選考用紙 (例)

【評価基準】	試合順		小1A-1		小1A-2		小1A-3		小1A-4		小1A-5	
	紅	白	紅	白	紅	白	紅	白	紅	白	紅	白
5 とても良い												
4 まあまあ良い												
3 ふつう												
2 あまり良くない												
1 良くない												
氏名(所属)												
1. 礼法を正しく身につけているか												
2. 姿勢よく試合を行っているか												
3. 基本動作を身につけているか												
4. 勝敗にこだわらずに最大限に力を発揮しようとしているか												
5. 審判や試合相手を尊重する態度がみられるか												
合計												

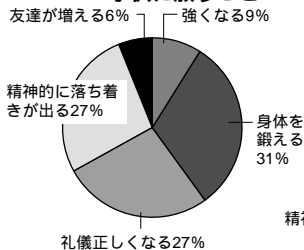
選考委員名 \_\_\_\_\_

小1 小学校1年の部 A-1 A試合の第一試合

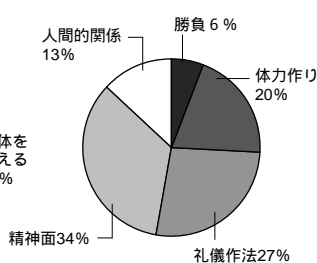
### 3. 「さわやか選手賞」実施におけるアンケート結果

保護者がこの表彰をどのように受けとめたのか、アンケートを実施しました。

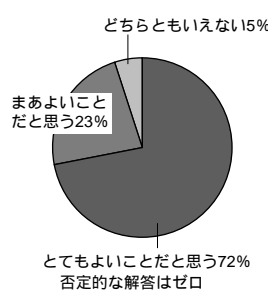
#### 1. 柔道を通して子供に願うこと



#### 2. 親が重視する点



#### 3. 「さわやか選手賞」について



## 指導者の養成と活用

平成10年度から、有資格者の活用を積極的に図る一環で、国体柔道競技の監督は、文部省認定の「競技向上指導者C級以上の有資格者」であることが義務づけられました。

資格を取得するための講習会の受講資格等は、全柔連または各都道府県柔道連盟(協会)にお問い合わせ下さい。

養成科目の時間数は次のとおり。

(1) 専門科目 350時間(柔道3段以上の者は60時間に減免)

種目の特性に応じた基礎理論(50時間)

例: 柔道の特性、歴史、技術の構造、練習法とトレーニング、等

実技(260時間)

例: 基本動作、対人的技術、トレーニング、形、救急処置、等

指導実習(40時間)

例: 指導計画の立案、等

(2) 共通科目 150時間

## 正しい柔道の普及のために

「柔道指導ビデオ」の作成を行い、その完成版が平成8年4月から販売されております。

また、「生涯柔道」推進のために、昨年9月に実施された「全日本柔道形競技大会」についても、本委員会が検討を行い、開催に向けての作業を行いました。(詳細は5ページ)

さらに、「柔道目安箱」の開設を行い、月刊「近代柔道」を通じて、柔道に関する意見交換を行っています。先日も仙台市の柔道愛好家から400字詰め原稿用紙18枚ものご意見を頂きました。

その他、「柔道用語」の検討(将来は和英対照辞典を作成)等、正しい柔道の普及と柔道人口の拡大についての施策を検討しています。

「小学生の大会での表彰について」のアンケートでは、今回のような試合態度の表彰に賛成意見は、約74%。しかし、試合成績だけの表彰13%、様々な観点の表彰13%となり、保護者の多様な観点がうかがえた。



### '97年度法人会員(平成10年1月末日現在)

共立鋼業株式会社  
西武建設株式会社  
塩野谷商事株式会社  
日本海外サービス株式会社  
片山建設株式会社関東支店  
株式会社マタヨシ開発  
九州石油株式会社

株式会社三浦組  
二葉印刷株式会社  
株式会社清水園  
株式会社上越テクノセンター  
株式会社リコー  
株式会社日鐵商事  
日本流通センター株式会社

株式会社六三四堂  
サクラインターナショナル株式会社  
全国朝日放送株式会社  
KSシステムズ株式会社  
飛鳥建設株式会社  
府中運送株式会社  
本間運輸株式会社

道都大学  
株式会社花井組  
社団法人北海道柔道整復師会  
社団法人秋田県柔道整復師会  
千葉県柔道連盟  
大洋建設株式会社  
柔の会

# 「主役は選手」試合を支える審判員

審判委員会

先の世界選手権では、審判員の判定について多くの声が寄せられました。柔道を楽しんで見ている観客は、その試合の善し悪しに審判員の果たす役割が大きいことを知っています。「試合審判規定」の検討はもちろん、試合のコーディネーターである審判員の資質を高めるために、審判委員会は活動しています。今回は、公認Aライセンス審判員の試験と審査にスポットをあてました。審判員として技量を高めるには？のお役に立てればと思います。

## 公認Aライセンス審判員になるには

### 【受験資格と制度】

- ・年齢 - 30歳以上
- ・段位 - 六段以上（女子四段以上）
- ・Bライセンス取得後、3年以上  
全国大会の審判ができる。

(Bライセンスは地区大会まで、Cライセンスは都道府県大会まで)

受験者は、各年度毎に審判委員会が定めた地区別割当数に合わせ、全国10地区より推薦を受けて選ばれます。(平成9年度は47名でした。)

### 【学科試験】

平成9年度は、5月に東京と大阪の2カ所で一斉に実施しました。

試験の中身の概要を紹介しましょう。

審判員として常に身につけておきたい必要最小限の内容です。

1. 講道館柔道の「技名称」について  
歴史と共に、技の数や名称が変わった事など、熟知する必要があります。
2. 講道館審判規定と国際審判規定との比較  
試合の技、服装、取り扱い統一事項、試合時間、審判員の動作、禁止事項等、豊富な知識量が必要です。

### 3. 「講道館柔道試合審判規定」の設問

試合場～少年規定まで条文をしっかりと把握する必要があります。

勝敗に関する事項や取り扱い統一事項の内容まで触れています。

100点満点で60点以上が合格です。

### 【実技試験】

学科試験に合格した人は、地域ごとに行われる実技試験を受けます。例えば国体地区予選、ジュニア体重別選手権大会地区予選等です。

その実技試験で審査員は、審判員の次の項目の技量を採点します。

- ① 技判断 (40点)
- ② 反則判断 (20点)
- ③ 宣告 (10点)
- ④ 動作 (10点)
- ⑤ 態度 (10点)
- ⑥ その他 (10点)

100点満点で70点以上が合格です。

大会観戦のときなど、上記の項目でチェックしてみるのも面白いことでしょう。

## Aライセンス取得後の 資質向上のために

### 【書類審査】

Aライセンス取得後、4年に1回の更新手続きに伴う書類審査も行います。

### 【実技審査】

年2回、有資格者の資質チェックを国体などの全国大会で実施しています。

### 【研修会】

年4回、全国4ブロックで実施しています。

また、この他、Cライセンス資格者以上の審判員を対象とした「地方審判講習会」が年数回開催され、審判委員会から講師が派遣されるようになりました。

以上の他に、審判委員会では、国際柔道連盟(IJF)審判規定と講道館審判規定における問題点や改正案についての検討、IJF審判員ライセンス試験に受験者を派遣するなどの活動を行っています。

## 会員募集中



あなたの1枚が柔道を支える！

JOCスポーツマンカードを  
ご利用いただきますと、  
そのご利用金額の一部が  
自動的に(財)全日本柔道連盟に支払われ、  
主にスポーツ選手の強化資金として  
使われます。

お問い合わせ

(財)全日本柔道連盟

総務部・総務課

## 講道館柔道試合審判規定 「審判ビデオ」

技の判定、動作等を日頃どのように勉強したら良いか？を映像を通して具体的に示してあります。是非、各地区の研修会でご活用ください。

【内容】(講道館規定のもの)

あなたの判定は！(難しい判定の例)

国際柔道連盟試合審判規定との比較も

勝負の判定

場内、場外の判定

禁止事項

審判員の動作

少年規定

内容検討・撮影・編集は審判委員会担当



小松エンジニアリング株式会社  
本田技研工業(株)熊本製作所  
有限会社泉自動車内張工場  
株式会社明興建設  
ユーエス電気工業株式会社  
株式会社池田建設  
株式会社橋口組

株式会社ケイデイ工業  
佐藤企業株式会社  
丸昭建設株式会社  
株式会社増永組  
那須セメント工業株式会社  
社団法人熊本県建設業協会  
医療法人社団自由が丘

大進株式会社  
旭化成工業株式会社  
京葉ガス株式会社  
日本道路公団  
日本通運株式会社  
山田ゴム工業株式会社  
株式会社東芝

新日本製鐵株式会社  
近畿通関株式会社  
高橋不動産株式会社  
株式会社コイルセンターフジタ  
東京コンドルタクシー株式会社  
有限会社三井商事ニューセブン  
石井化成工業株式会社

株式会社竹腰  
新日本プロレスリング株式会社  
株式会社シンセイ  
学校法人島谷学園  
株式会社神田製作所  
日東化工株式会社  
株式会社和臣建設

# 日本中の...世界中の人に “柔道の魅力”を知らせる

広報委員会

## バンザイ!!「柔道フェスタ」対象者を中学生まで広げたい

JUDO FESTA「夢、かなう瞬間」は、パリ世界選手権大会応援イベントとして9月14日(日)に東京・練馬区の武蔵大学で開催された。約600人を超すチビッツや父兄が集まる中で、日本選手団(男子7名、女子7名)が合宿中の講道館から駆けつけると、会場はお目当ての選手たちに対して、割れんばかりの声援を送った。小粥義朗・全柔連専務理事は「柔道の素晴らしさを、もっと日本の若い人たちに知ってもらいたい、という思いからこのフェ



憧れの五輪代表選手に楽しい質問が飛びかった柔道フェスタ



両手に花?のチビッツ柔道選手

スタを企画した」とあいさつ。山口香委員のコーディネーターでフェスタは進められた。

第1部のビデオ上映「一本」(蘇れ、超柔道家たち)で、過去のオリンピック、世界選手権、日本選手権における名場面に喚声を上げた後、古賀稔彦と吉田秀彦両選手がゲストとして登場。背負投と内股の名手が画面から抜け出す現実、会場は騒然となった。

第2部のゲーム大会には代表選手が参加。

「私がアトラクタでつけていたりポンはピンクか、それとも赤でしたか?」ヤワラちゃんの田村亮子選手が質問を出すと会場は最高潮にフィーバーした。そして第3部は代表選手との握手会と記念撮影会。豆柔道家たちの瞳は興奮で光り輝いていた。この日を待って伊豆七島の神津島から11名のチビッツも参加。引率してきた大野和臣先生(村会議員)は「子供たちにとって、これ以上の思い出はない。この感激を胸に生涯柔道を続けてくれれば私もうれしい」と語っていた。参加者全員に世界選手権代表の写真入り色紙がプレゼントされ、クイズの賞品(柔道衣、テレカなど)を宝物に、充実のひとときを過ごした。日本柔道の原点を支えるのは、このチビッツたちである。今後は対象者を中学生までに広げて第2回、第3回と柔道フェスタを続けたい。

(文責・広報部長 坂本羯正)

柔道の魅力ってナニ? に答えるように、広報委員会では、大会広報、マスコミ対応、また「全柔連だより」の編集等を行っています。昨年9月14日には、柔道の底辺拡大と世界選手権の選手の激励を兼ねたJUDO FESTAを行いました。

委員会は「広報部」と「編集部」に分かれ、作業を分担して活動しています。

### 【広報部】

1. 日本国内で行われる国際大会(嘉納治五郎杯、等)の事前、当日の広報活動。
2. 世界選手権等をめざす強化合宿における報道関係者との対応。
3. 国内大会広報  
大会事前広報・情報提供等。  
試合当日に、結果速報の提供、インタビュー会場への運営。
4. 海外の国際大会の成績を速報(報道関係者)する。
5. 「がんばれニッポン!」事業を支援し、交付金収入増に協力。
6. テレビ、雑誌等のマスコミ取材の受付と調整処理(選手の練習活動に支障を与えないように)等、選手とマスコミ間の調整や柔道を多くの人に知ってもらう活動です。

### 【編集部】

年2回発行の「全柔連だより」の編集及び発行を行い、主に国内の柔道愛好家へのアピールを行っています。  
毎回50,000部作成し、その7/10は各都道府県柔道連盟に、残りは団体登録をしている各団体等へ配布しています。

バルセロナオリンピック以来、減量の怖さを忘れ、むしろ減量することが「カッコいい」ようなイメージでとらえている選手が多くなった感じがする。特に、若い中学、高校の選手が当然のように減量に挑戦している姿をよく見かける。でも、本当は減量は普段から体重管理がうまくできない人がすることで、決してほめられたものではないし、試合で全力を出し切ることもまずできない。後悔するだけである。減量は十分な時間をかけて、慎重かつ計画的にしなければならぬ。ベストの体重の3%を上限にした方が無難だ。

さて、試合で全力を出せないだけではなく、極端な減量の怖さは実は、もっと他にある。1つめに脱水を伴う減量をした場合、血液の循環は当然悪くなっている。そんなときに試

合でもしたら、心臓には一気に負担がかかり、まいってしまう。疲労も早くなり、回復も遅い。時には意識朦朧となり、倒れたりすることもある。2つめに絶食など極端に食事をとらない場合には、消化器系の機能が弱ってくる。このため、減量途中で体調を崩して断念

## 減量って本当に必要?

医科学委員 村松成司

せざるをえないことも出てくる。また、公式計量後の食事もよほど考えないと、胃腸がびびりして、必ずと言っていいほど下痢をおこし、試合どころではなくなってしまふ。3つめは選手生命そのものが左右される危険性があることだ。極端な減量をした場合、試合

後は当然思いつき食べたくなる(飲みたくなる)。体は飢餓状態を回復しようとして食べたものを一気に体内に取り込んでしまう。一気に取り込まれた栄養物、特に糖、脂肪などは肝臓に中性脂肪という形で溜め込まれる。このため、肝臓機能が極端に低下し、体の基本的な機能までもがコントロールできなくなる。こうした減量を繰り返すことによって肝臓を壊し、涙をのんで引退していった選手もこれまで数多く見てきた。ベストな体調に戻すための減量は大いに奨励されるが、トレーニングと栄養を十分考えて計画的に行うべきである。くれぐれも無茶な(短期間で大幅な)減量はしないこと。また、普段から体重管理を徹底しよう。全力を出しきるために、そして、勝つために。

## '97年度法人会員 (平成10年1月末日現在)

飛嶋歯科医院  
株式会社アクティブ  
株式会社ラストック  
社団法人加藤道場  
株式会社男鹿興業社  
株式会社横山商店  
合資会社中仙産業  
長島鋳物株式会社

三菱化学物流株式会社  
ダウ・ポリウレタン日本株式会社  
株式会社高橋清次商店  
大阪府柔道連盟  
有限会社大久保石材店  
株式会社建武堂  
有限会社甲文堂  
株式会社サイトテラー

有限会社ヒロプランニングオフィス  
明徳輸送株式会社  
株式会社そごう  
老人医療福祉研究会  
巢鴨学園  
大城開発株式会社  
株式会社リナン  
株式会社川原組

仙北土建株式会社  
加藤産業株式会社  
味岡建設株式会社  
株式会社本の友社  
伊藤忠商事株式会社  
郵船航空サービス株式会社  
協栄興産株式会社  
イースタンモータース株式会社

三荘企業株式会社  
学校法人帝京大学  
花岡土建株式会社  
日本コースサポート株式会社  
株式会社マッス

(順不同)

# 「97アメリカ国際柔道大会」に参加して

全日本実業柔道連盟は、1985年から選手の技術向上と国際的感覚を持った人材づくりを目的に海外派遣事業に取り組んできた。今回は、全日本柔道連盟の推薦をいただき、「1997年アメリカ国際柔道大会」に役員・男子選手（計11名）を昨年10月21日（火）～11月3日（月）の14日間にわたり派遣した。

大会には、日本・韓国・地元アメリカをはじめ、世界33か国363名の選手（男子236名、女子127名）が参加した。コロラドスプリングスのオリンピックトレーニングセンターにおいて開催されたが、大会2日目に猛吹雪となり、コロラド州政府から外出禁止令が出され、一日順延となる前代未聞のハプニングもあった。

また、当地は、標高2000mの高地で空気が薄く、選手にとってはすぐに息が上がる厳しい状態での戦いとなった。結果は、8階級に出場し、金メダル2個（95kg超級、OPEN）・銀メダル3個の成績であった。



アメリカ遠征した全日本実業柔道連盟の選手団

今回、久しぶりに海外の大会に参加してみて感じたことは、

1. 同じ国際試合審判規定の試合ながら日本とアメリカでの審判の違いに戸惑った。
  - (1) 「消極的指導」の取り方が早い。（試合の流れなど全く関係なく、技を掛けるチャンスをうかがっていても、時間がくればすぐに反則を取る）
  - (2) 膝つき背負いでの掛け逃げ反則。（投げにいった失敗した技か、逃げて掛けた技かの判断が出来ないようだった）
  - (3) 技の判定が甘い。（勢いがあれば、有効ぐらいの技でも一本を取っていた）
2. 試合について。
  - (1) 外国選手は片手から、肩車・朽木倒、裏投など、ちょっと無理かと思われる姿勢からでも強引に技を仕掛けてくるのに対し、日本選手は実力的には上だと思う自分の組手・技

にこだわり過ぎて技の仕掛けが遅く、先に消極的指導やポイントを取られる試合展開となり、苦戦したケースが多かった。

- (2) あくまで一本で勝つ姿勢は大事であるが、もっと相手の組手に応じ、片手からでも掛けれる技や組際に掛けられる技の研究が必要ではないかと思った。

最後に、今回久しぶりに日本選手団が参加したことに対して、アメリカのウチダ会長はじめ、日本から指導に行かれている先生方に変々喜んでもらえ、今後も毎年日本選手団の派遣を望まれていた。また本大会やサンノゼ・ロスアンゼルスで行った親善試合等を通して多くの方々と友好・親善を図ることが出来たと思う。

（全日本実業柔道連盟事務局次長 岩田久和）

## 全柔連 新商品ご案内

### ① 97パリ世界選手権ビデオ

昨年10月、パリで開催された世界柔道選手権のハイライトビデオ（企画：国際柔道連盟、製作：全日本柔道連盟）が完成しました。予選から決勝までの好試合を選び、男子編（75分）、女子編（65分）の2本1組で構成されています。販売価格6,000円（税込み）



### ② 全柔連公認 Aライセンス審判員 『学科試験問題集』（平成3年～平成8年）

これさえあればもう大丈夫！ 過去の問題を1冊にまとめました。販売価格1,050円（税込み）

\* ご注文は、住所、氏名、電話番号、品名、数量をご記入の上、FAXにてお願いします。

全日本柔道連盟事務局  
TEL03-3818-4199 FAX03-3812-3995

## 高体連トピックス

### 第20回全国高校柔道選手権大会

3月20・21日 応援をお願いします！

今年も、全国高等学校柔道選手権大会の季節がやってきました。夏のインターハイとともに、春の選手権として高校柔道選手の大きな目標となっている大会です。

本大会には全国47都道府県の厳しい予選を勝ち抜いた代表が出場し、第1日目は男子個人試合（体重無差別）と女子個人試合（7階級）が、大会2日目は男子団体試合が行われます。

ルールは、国際柔道連盟試合審判規定で行われますが、団体戦においては勝ち抜き戦が採り入れられるなど、独自の特色ある大会でもあります。

本大会も、昭和54年のスタート以来、20回目。今回は第20回記念大会のため、男子団体戦の出場枠が例年より8校増え60校となり、例年以上の熱戦が期待されています。また、女子個人試合においても、新階級による初の大会ということで、どんな試合が展開されるか大変興味深いところです。

日本柔道の近い将来を担う高校生たちの澁刺とした試合振りにぜひご注目を！

3月20日（金） 東京武道館：男女個人試合

3月21日（土・祝）日本武道館：男子団体試合

\* 両日とも午前8時30分より 開会式

なお、大会の様子は両日ともテレビ朝日はじめ大会放送加盟31社により全国放映されます。

# 異国の地で武道の心を広める“柔道家”

今回の「世界の国から」シリーズは、永年ヨーロッパに居住し、欧州柔道の変遷を目の当たりにし、昨年の世界選手権でも連日熱心に観戦していらっしゃるお二人にご登場いただきました。

柔道に美がなくなってきました。勝負にこだわるあまり、自然の姿が消え、この姿勢では理論的な技は施せません。五体の働きが総合活用できる姿勢で戦ってほしいものです。ハズミの動作が多くあり、危惧を感じます。崩し、作り、掛けの原則を再認識し、その活用を目指すべきです。

選手として有名になれば、安易に進める風潮が生まれ、簡単に古巣を飛び出す事は、師弟の間に以心伝心の心のつながりが十分ではなかったと思います。強ければ社会に出て、人間として高く評価されるとは思われません。「人格を形成し、世を補益する」嘉納師範のモットーをこの際肝に銘ずべきです。師はやはり斯道の先達として弟子を育てるべきです。選手も有名になればなるほど謙虚な気持ちが必要です。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の古い諺を思い出します。

私はオリンピックに3回参加いたしました。1964年の東京大会ではフランスチームのコーチとして参加し、時の安川大五郎組織委員長より感謝状をいただき、72年のミュンヘンで初めてフランス選手は3名入賞し、76年のモントリオールでは1名の入賞でした。

イタリアに住み着いて、今年で37年となります。現在、北部イタリアのトリノ市に居住し、道場を経営しております。対象は社会人で、形、柔道技術、主として護身術を強調した柔道技術を指導しております。

柔道がオリンピック競技として年数を増すとともに、その本質が変わってきました。簡単にいえば、レスリング式になったと思います。したがってそれに伴って技術面で武術的



子どもと楽しい柔道のひとときを過ごす栗津氏

大正12年生まれ。京都府出身。9段（フランス柔道連盟）。74歳。立命館大学卒業。フランス・パリに在住。長年フランス柔道の発展に尽力し、その薫陶を受けた選手は多い。出身地京都とパリで交互に開催される友好親善大会も昨年で36回目を数えた。

あわ ず しょう ぞう  
**栗津 正蔵**

## 心と技で“柔道の美”追及

世界大会はパリで61年、79年、97年と主管国の経験をいたしました。61年は、日本チーム初の海外遠征でお手伝いすることになり、当時ベルギーの安部一郎氏とともに、閑静なホテルやレストランを探したものでした。代表の二代嘉納館長、早川勝、竹村茂孝、松本芳三、二代中山真柱、松本安市、吉松義彦の諸先生方と親しくしていただく機会が生まれました。

79年には、松前重義氏が国際柔道連会長選挙に立候補し当選され、その準備期間に猪熊功、広瀬祐一、大館勲夫諸先生と行を共にしました。

私の恩師は熊本出身の吉澤一喜、西與七先

生です。私は小学校5年の秋より、京都一商の練習に毎日通いました。西先生に捻挫を治していただいたからです。当時の一商は第一次黄金時代で、木村政彦氏の鎮西中学を破り、津山中学と四帝大会において両校優勝となりました。吉澤先生は常に三大目標として、武徳会大会、四帝大会、明治神宮大会に優勝を目標とする張り紙を道場に掲示されていました。その2年後、四帝大会と神宮大会に優勝し、武徳会大会では吉松義彦氏の鹿児島商業に決勝で敗れました。この伝統を継ぐために、入学以来両先生の下で強い練習をいたしました。私も4年と5年に京都代表の一員として参加し、神宮大会で優勝いたしました。吉澤先生よりは時に詩を習い、西先生よりは一にも二にも練習の、スパルタ練習でした。好きであったからこそ、選手時代の辛苦に耐えられたと思います。

現在私は、柔道創成期に活躍された広瀬夫作の正気の歌を吟じつつ、日本の歴史を回顧し、自己の心を省みつつ、楽しい指導に励んでおります。

日本国内でも、柔道は試合を目標とした練習方式がほとんどでしょう。しかし、あまり試合の面のみを強く打ち出すと、限られた年齢層



昭和8年生まれ。静岡県出身。7段。64歳。日本大学卒業。イタリア・トリノに在住。道場経営。毎日午後からの稽古、さらに週末は出張指導と飛び回り、多忙の毎日をご過ごす。

すぎ やま しょう じ  
**杉山 庄治**

これも一般成人から背を向けられる原因ではないかと思われます。試合選手の特徴は、筋力を養い、体力をつけ、あまり年数をかけないで成績をあげることを目的としていますから、技術の習得に何年もかかるような方法は好みません。その結果として、試合を観戦しても面白くない。我々でさえこうですから、一般大衆は興味を持たないのは当然のことです。カラー柔道衣の件も一般大衆とは関係のないことで、面白くない不可解な試合内容では、カラー柔道衣だけでは解決できない問題です。内容の充実さが問題なのです。

教育性・武道性を中心にした方式とオリンピックを目標とした競技柔道は、そのためのルールに従う練習方式を徹底して行うとはつきり区別をつけていくべき時だと思われます。

柔道の大本山講道館は、伝統柔道はこうなんだと、世界に柔道の再認識の呼びかけをするべきだと思います。

## 今こそ“伝統柔道”の復活

要素が消えてゆき、豪快な技も見られず、特に国内の試合等では、角突き合い状態で馬（鹿）力を持って押しまくったり引き合ったりで、点数をかせぐ様式に変わってしまいました。こういった影響が時代の流れなのか、柔道を希望する者が少なくなり、今や少数スポーツとなりつつあります。あまりにもスポーツ面のみを強調しすぎたゆえか、柔道の伝統的特徴が見られなくなり、教育柔道、護身柔道等は忘れ去られた状態で、一般成人は他の武道に移ってしまいました。もちろん柔道以外のたくさんのスポーツがありますから、柔道人口の減少も当然だろうとは思いますが、一生涯をこの道に生きようとする私なんか残念でなりません。

の人たちのものものとなるのではないのでしょうか。それでも日本の場合は小学生から大学生、一般と、練習する層が厚く、それ以上に柔道はお家芸ですから、イタリアにおける私の悩みとはあまりにもかけ離れすぎていると思いますが……。

当地では試合のみを目標とせず、武道精神の追求を目指す人たち、礼儀態度、正しい技術の研究、歴史、技、形などを習得したい成人が多いのです。また治安の余りよくないところでは、護身術、セルフディフェンスといった技術習得を目的に入門する人たちが、かなり多く見られます。しかし、連盟の方針はオリンピックでメダルを獲得するのが目標ですから、試合選手以外は重要視されません。

# 青少年の豊かな人格形成に地域一丸 ~東京・三宅島~

「いざ！」威勢のよい掛け声とともに、体育館に緊張した空気が生まれる。乱取りの練習が始まった瞬間である。「気合いを入れる！」汗まみれになって、今まで積み重ねてきた練習の成果を吐き出すように、心・技・体がぶつかりあう。指導者として、最も充実する時間帯である。へとへとなりながらも、前へ前へと徹底した練習が日が暮れるまで続いていく。

三宅島の柔道は、学校の部活動としての柔道よりも、独特の地域性から地域・社会教育・学校が一体となり、青少年の健全育成に重点を置いて活動している。各学校・地域に柔道部があり、地域の体育指導員、警察署員、教員がその指導にあっている。だから、小学生・中学生の区別なく練習が行われる。柔道活性化のために様々な団体が種々の活動を催している。防犯協会、母の会、体育協会主催による柔道大会、警察署の武道始め、中体連としては、体重別選手権、学年別、新人大会など、枚挙に暇がない。1年を通して、柔道が継続できるように工夫されている。島の強い熱意が柔道を支えており、そのもたらす教育効果は学校・地域においても高い評価を受けている。

問題点としては、やはり現代の世相を反映して、部員数が目減りしていることである。とりわけ、女子部員の減少は深刻である。また、学校の指導者は、島に赴任して初めて柔道を指導するのが普通で、高度な技術指導となると、力不足の感が否めない。こうした問題を解決するために、ここ20年来、東京都中体連柔道部から特別講師を招いて、技術交流のための錬成会を設けている。これは、毎年中体連で活躍されている先生方が島の子供達に技の基本や応用をご指導して下さるものである。島の子供達は錬成会を大変楽しみにしており、柔道を続ける大きな励みとなっている。

島の柔道がこうして盛んになるのは、その本質が、力の優劣ではなく、礼を重んじ、人



三宅中学校の桜田校長先生も指導に一役。子供達も真剣な表情で聞き入る

格形成をめざした「ひと」造りにあるからである。島において、柔道は心・技・体、そして礼を重んじる態度を養うのにふさわしく、豊かな人間性を育むのに大きく貢献している。柔道着の袖を通すたび、このことを強く感じる。そして、今日も、稽古を通して子供達とともに汗を流す喜びを堪能するのだ。

(文責 岩田 茂・三宅村立三宅中学校)

## 「柔道教室(後援:総合警備保障)今年も開催!

全日本柔道連盟では、柔道の教育・普及活動の一環として、全国各地での柔道の普及・振興ならびに競技力の向上を目指すため、高校・中学の選手を受講対象とした柔道教室(指導者は聴講のみ可)を総合警備保障株式会社の全面的な協賛を得て、年間6都道府県で開催します。

平成2年(1990年)度から始まったこの柔道教室の特徴は、何と言ってもそのカリキュラムの豊富さにあります。

単に投技・固技の実技指導だけでなく、講義形式で、「世界の柔道の動向」、「体力トレーニング」、「栄養と減量問題」といった「理論」を採り入れ、そのうち2つのテーマを開催地が希望により選択できるシステムにしています。このうち特に「体力トレーニング」、「栄養と減量問題」等の講義は選手・指導者からの要望も多く、好評を得てい

### 編集後記

世界の柔道界が大きなうねりの中にある現在。IJFの教育理事が佐藤宣哉氏から中村良三氏にバトンタッチされました。多大な成果を残され勇退する佐藤氏、審判問題等で難問が山積する世界にあって新任の中村氏に期待すること大であります。

今号はそんな国際柔道界の動向に注目し、二宮和弘、小野沢弘史の両氏に世界選手権の反省を踏まえて、審判員の質の問題を語っていただきました。また世界の国からでは、パリ在住の粟津正蔵氏が今一度、嘉納師範の教えである柔道の原点に立ち返る必要があると説かれ、失われつつある「柔道の美学」について触れられております。イタリア在住の杉山庄治氏は競技性を主体とした「スポーツ柔道」と、教育面を重視する「武道としての柔道」に分けるべきとの提言をされています。

国内では少子化のあおりを受け、柔道人口の減少、中学における部活動の衰退、そして指導者不足の現況等、解決を迫られる問題が目白押しです。しかし都下の三宅島からは、明るい話題が報告されています。「ひと」造りには柔道が一番と、地域、社会教育、学校が一体となり、全島あげて柔道の活性化に努めているとのことです。全国の指導者も一考を要する活動ぶりです。指導者達の奮闘ぶりが目に浮かび「島の三四郎達よ頑張れ」と祈る思いです。



平成9年度、岡山県で行なわれた柔道教室

ます。

ぜひこの機会に積極的に柔道教室に参加され、柔道の本当の素晴らしさを学びとって、今後の柔道の活動に役立ててください。

平成10年度の開催県は、茨城県(9/26~27)、徳島県(10/10~11)、大分県(10/10~11)、三重県(11/14~15)、長野県(12/12~13)、和歌山県(99.1/30~31)の予定です。

## 東京都内の大会会場へ 便利なホテル

平成10年度も講道館を中心に東京都内で全国的柔道大会が数多く開催されます。今回は全柔連がご協賛しているホテルをご紹介します。

- セントラルホテルチェーン  
グランドセントラルホテル  
〒101-0048 千代田区神田司町2-3  
TEL03-3256-3211 担当/雨宮  
ニューセントラルホテル  
〒101-0046 千代田区神田多町2-7-2  
TEL03-3256-2171 担当/須藤  
セントラルホテル  
〒101-0047 千代田区内神田3-17-9  
TEL03-3256-6251 担当/渡辺
- ホテルニュー神田  
〒101-0063 千代田区神田淡路町2-10  
TEL03-3258-3911 担当/壁山
- 晴海グランドホテル  
〒104-0053 中央区晴海3-8-1  
TEL03-3533-7111 担当/成田
- 渋谷東武ホテル  
〒150-0042 渋谷区宇田川町3-1  
TEL03-3476-0111 担当/渡辺

お申し込みの際は、  
「全日本柔道連盟登録カード」をご提示下さい。  
各ホテルとも特別料金にてサービスいたします。  
ぜひ、ご利用下さい!!!

## 「全柔連だより」は皆様のページです

### 全柔連だより・第13号

発行人/嘉納行光 編集/広報委員会

発行/(財)全日本柔道連盟

〒112-0003 東京都文京区春日1-16-30

講道館内

☎ 03-3818-4199 FAX 03-3812-3995

DTPデザイン・印刷/クニメディア株式会社